

2015年8月1日

# HAKKODENSIS



十和田八甲田地区  
パークボランティア連絡会  
第106号 会報

事務局（発行者） 館 章二郎  
E-mail jrou\_tate@yahoo.co.jp  
高田：pkctw409@yahoo.co.jp

7月23日（土）、井戸岳植生復元作業及び、八甲田パトロールが実施されました。



今回の活動を含め、上半期の活動にご協力の皆様、ご指導下さった十和田自然保護官事務所の方々に深く感謝申し上げます。

7月9日（土）、十和田八甲田地域国立公園指定80周年記念式典が開催されました。

式典セレモニーに続き、当PV賛助会員の小笠原哲男氏による基調講演では、講師ご自身が当地域に居住し、日常の生活をされた経験に踏まえて、先人達が地域の魅力、及び観光地としての価値を世に、如何にして知らしめたかを紹介されました。

次に行われた講演及びパネルディスカッションは、他地区の事例紹介と、十和田八甲田地域の自然の魅力を活用した諸施策の方向性を模索するものでした。

会場となった小学校の体育館は、予想外に規模が大きく、往時は、多数の児童が在籍していたのでしよう。四季折々の学校行事において、児童達の歌声が体育館全体に響いていたであろうと感慨を覚えました。

十和田八甲田地域の観光シーズンは、これから本番となります。会員の皆様においては、お身体を充分にご自愛の上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。（館）

【十和田八甲田地域指定80周年】  
7月9日（土）、十和田湖小学校体育館で式典が行われました。

前日は会場準備にPV5名が協力し、紅白幕を張ったり、パイプ椅子を並べたり等、2時間ほど汗を流しました。

式典は、関係者及び来賓・一般参加者約220名が集まり節目を祝いました。

主催者挨拶では、「十和田八甲田の美しい自然を次の世代へ引き継いでいくべく更に努力をしていく」、「自然を守ると共に適切な活用を図る」、「北東北3県の連携を一層強めた活動を推進する」等の決意が述べられました。

続いて基調講演・パネルディスカッションが行われ、自然を活用した地域の活性化や新たなツーリズムの普及に向けた方策等が討論・提案されました。ご承知の通り、十和田湖の観光客は年々減少し、地域は衰退の一途をたどっており、美しい景色を見て通り過ぎる旅行から、体験型・滞在型への転換が求められていると思います。世界遺産熊野古道を活用したヘルスツーリズムの取り組みが参考になると思われました。

後片付けを含め、参加の皆様、お疲れさまでした。（津川 裕一）



パネルディスカッション



基調講演



式典会場

【休屋クリーンアップ活動】

皆さんこんにちは、6月25日、休屋クリーンアップ活動に参加しました。

今回の活動は、国立公園80周年記念式典のために道路沿いの清掃作業を実施しました。パークレンジャーの指示で、普段、木を切ったりしてはいけないが、今回は思いっきり草刈り、枯れた木の伐採、剪定作業をしますという指示のもと作業を開始しました。

私は、仕事柄刈り払い機、チェーンソー、剪定鋏、ノコなどは使い慣れていますが他の皆さんは大変であったと思います。それでも午前中で所定区域の清掃活動を全員怪我もなく終了しました。

参加されましたP.Vの皆さん大変お疲れ様でした  
(工藤 三男)

6月25日(土) 晴れ、十和田自然保護官事務所に10時集合でしたが、時間より早目の集合でした。

作業場所は、休屋三叉路・十和田神社へ向かう杉並木の参道入口から十和田湖郵便局前の終点までの区間(この杉並木は樹齢約250年で江戸時代に植えられたとの事)と、元国民宿舎十和田湖温泉跡や十和田湖小学校入口の通学路です。



作業内容は、道路脇や園地内の雑草の刈り払い、歩道に伸びた木の枝払いや土砂の排除等でした。草刈り機、チェーンソー、スコップ、のこぎり等が準備され、自然公園財団から2台トラック、シヨベルカーが応援に来ました。

昼食は事務所内で参加の皆さんと色々な話をしながら食べました。また、赤坂さんから美味しい手作りパンの差し入れを頂きました。ご馳走様でした。

午後も作業がありました。事務局から、「今回は結構な力仕事で、内容が分かっていたなら力仕事に合う人達にもっと声がければ・・・」との反省があり、次回からの会報の活動予定に反映するとの事でした。

今回の活動で私自身、木の名前や花を見る余裕がありませんでしたが、汗が心地よい活動でした。参加されました皆様ご苦労様でした。  
(下村 正太郎)

【秋田十和田湖クリーンアップ大作戦】

6月28日(火)、恒例の秋田十和田湖クリーンアップ大作戦に、十和田自然保護官事務所のメンバーとしてP.Vから5名が参加しました。

午前10時、発荷峠第2駐車場において開会式が行われ、主催者から秋田県鹿角市、小坂町、十和田湖休屋地区から約120名の参加者と発表がありました。



秋田小坂町長の挨拶の後、我々P.Vは第6班に割り当てられ、マイクロバスで十和田湖岸に移動し、早速作業を開始しました。

P.Vの参加者は清掃作業も手慣れたもので、ゴミ拾いをしながら道端の植物を観察する余裕もあるくらいでした。十和田湖西海岸の国道沿いに進み、あつという間に集合場所へ到着。それにしてもゴミは少ないように感じられました。十和田湖をバックに記念撮影した後、11時20分、発荷峠第2駐車場に戻り、無事解散。参加の皆さん、お疲れさまでした。  
(高田)

十和田湖発荷峠には第1・第2駐車場を結ぶ遊歩道があり、それぞれ展望所が設けられています。



… 8・9月の活動予定 …

「十和田八幡平地区PV合同研修・交流会」

担当地区：八幡平地区PV

日時：8月28・29日(日・月)

場所：八幡平ロイヤルホテル

内容：1日目座学及び懇親会

2日目八幡平登山で計画中

参加費：7千円(予定)

申込みは8月10日(水)まで願います

詳しい内容はまだ決まっています

参加希望者へは後日連絡します

「休屋クリーンアップ」

日時：9月3日(土)9時～15時

集合：休屋自然保護官事務所

申込みは8月30日(火)まで

「井戸岳植生復元作業」

日時：9月10日(土)9時～15時

集合：酸ヶ湯IC前

毛無岱木道補修(木道へ栈木取付け)

当日の酸ヶ湯IC窓口担当者を募集!

申込みは9月6日(火)まで

「酸ヶ湯クリーン作戦」

9月15日(木)

詳しい内容はまだ決まっています

参加希望者へは後日連絡します

申込みは9月9日(金)まで

各活動参加申し込みは各地区連絡担当

係まで(福村・高田・前田)



4月からの活動参加者

4/24(日) 定時総会	猪狩、日下、工藤樹、工藤三、小堀、宗前、高橋昭、館、田村、津川、對馬、鳥谷部、夏堀、畑、針生、東島、平川、福士、福村、法量、三浦、山田賢、山本光、山本正、若杉、和田、赤坂、小笠原、下山、西館、前田 31名
5/11(水) 鳶野鳥の森歩道整備	小原、館、田村、夏堀、三浦、山本正、下山、前田、吉崎 9名
5/29(日) 田代平湿原ロープ張り	猪狩、今井、木村、工藤三、小堀、高田、高橋昭、田村、津川、夏堀、東島、平川、法量、三浦、若杉、和田、赤坂、下山、前田 19名
6/11(土) 登山道パトロール	薬師沢：市川、田村、夏堀、福士、三浦、山本正、小笠原 毛無岱：猪狩、日下、小堀、館、東島、平川 酸ヶ湯IC：前田 14名
6/25(土) 休屋クリーンアップ	館、高田、下村、鳥谷部、工藤三、夏堀、東島、山本光、和田、赤坂、小笠原、前田、吉崎 13名
6/28(火) 秋田十和田湖クリーンアップ	高田、山田賢、小笠原、前田、吉崎 5名
7/9(土) 80周年式典	工藤三、津川、館、鳥谷部、山田賢、畑、福村、東島、馬渡、赤坂、小笠原、西館、前田、吉崎 14名 (7/8準備協力者 津川、下村、馬渡、山田賢、館 5名)
7/23(土) 井戸岳植生復元作業	日下、田村、平川、館、東島 5名

参加者名簿に誤りがある場合は事務局へ申し出て下さい。

## 【 ツキノワグマの生態と人身被害について 】

平成 28 年 7 月

**クマによる人身被害**

今年 5 月末から 6 月上旬にかけて、本県の迷ヶ平に隣接する秋田県鹿角市・田代平地区周辺の山中で、男女 4 人がタケノコ採りの最中にツキノワグマに襲われ、相次ぎ遺体で発見されるという悲惨な事故が発生した。

5 月 21、22 日に秋田県の男性 2 人が、その後 30 日に十和田市の男性、6 月 10 日に同市の女性の遺体が発見された。

**クマの胃に人体の一部**

6 月 10 日、4 人目の女性が犠牲となった場所で射殺されたメスグマの胃の内容物を調べた結果、タケノコに混じって人のものと見られる肉片や髪の毛が確認されている。

被害にあわれた方を検視した結果によると、頭部や内臓に欠損が見られ、4 人目の犠牲者では、下腹部に著しい損傷痕があり、性別の区分もはっきりせず、遺族による身元確認においても時間がなかったという。（犠牲になられた方々に対し、心からご冥福をお祈りいたします）

**加害クマの特定**

今回、犠牲者を出した加害クマの特定には至っていないが、現場で駆除された体長 130cm、70<sup>kg</sup> のメスグマの他に、周辺では体長 150cm 位のオスグマも確認されている。

駆除されたメスグマは子供連れであり、特に 4 人目の犠牲者においては親子で人食したと見られ、加害グマの一個体と思われる。（捜索隊が遺体収容時、メスグマは遺体に近づけまいと、激しく抵抗したという）

**ツキノワグマの特徴と生態**

体長・・・1.2m～1.5m、体重・・・オス約 80～130kg、メス 50～80kg

本州、四国地域に生息し、特に東北地方で多く確認される。（九州地域では絶滅したと見られる）11 月中旬から 4 月下旬頃まで冬ごもりし、妊娠中のメスは越冬中に 1～2 頭出産する。

雑食性で、春はブナやミズナラなどの若葉、フキやアザミ、ミズバショウ、アイコ、ミス、エゾニュウなど、秋はブナ、ドングリの実を好み、雪崩に巻き込まれたカモシカの死骸なども食べる。

前足は筋力が発達し、鋭く固い爪は強力な武器で、人身被害の多くは、この強力な爪による裂傷である。最初に前足の爪で一撃、倒した後、急所となる頭部から頸部（ノド元）に喰らいつく。但し自ら人を襲うことはないと言われる。（タケ林や溪流沿いなどで偶発的に出会う場合が危険）

**クマと遭遇しないために（ 遭遇して攻撃されたら ）**

入山前に新聞（クマ食害・目撃情報）や地元の人などからクマの情報を入手する。

音のする物を携帯する。（鈴、ラジオ、笛、爆竹など）

入山中にクマの痕跡（足あと、食痕、糞）を発見した場合は引き返す。

クマを寄せ付ける食料はしっかりパッキングし、強い臭いのあるものは持ち込まない。

- ・ガソリンやクレオソート（防腐剤）、女性の香水など。（蚊取り線香は嫌う習性あり）

刺激しないように大きな音を出さず、静かにクマの方向（目）を見ながら後ずさりして離れる。

- ・背中を向けて走って逃げるとクマは追ってくる。

複数人数の場合は密着し、腕を上げたり（振らない）服を広げたりしてこちら側を大きく見せる。

クマ撃退スプレーは有効。（1～1.2 万円：有効期限 2～3 年 アウトドアショップで販売）

ナタ、スコップ等の撃退用具持参も有効。（襲われる前に振り回すのは危険）

- ・クマの急所である鼻若しくは目を狙い、一撃必殺の覚悟が必要となる。

女性は攻撃を受けたら両うでで頭と首を抱えてうつ伏せになる。（但し背中側から攻撃を受けてある程度の負傷は覚悟する。リュックサックを背負う）

**県内におけるクマの出没状況**

平成 28 年 7 月末現在、前年同期比 2.3 倍増の 276 件の目撃件数となっていて、既に昨年 1 年間を上回っている状況であり、今後秋にかけて更に出没件数が増えると予想される。